

29【P2】Ⅱ-306

成績不振学生に対する個別学習指導について

○小林 弘幸¹, 金岩 孝夫¹, 石突 諭¹, 高木 英利¹, 坂東 英雄¹(北海道薬大)

【目的】北海道薬科大学（以下、本学）では一貫した薬剤師養成教育を実践しており、4年次後期にはその総まとめである薬学総合演習科目が設けられている。本学ではこの科目の単位が取得できず、一部の学生は留年となっている。どのような学生が留年となるかは各教員の経験的な側面から予測されてきたが、統計学的な解析はなされてなかった。今回、4年次学生の成績推移と薬学総合演習科目の単位取得の関係を解析し、データに基づく早期の個別学習指導の重要性について検討を行なった。

【方法】基礎薬学系演習試験並びに第1・2回模擬試験成績と薬学総合演習科目成績との相関について検定した。

【結果および考察】基礎薬学系演習試験（7月中旬）と薬学総合演習科目の成績との間に相関が認められ（ $r=0.495$ ）、後期始講前までに基礎薬学系科目の復習の重要性が示唆された。特に、前年度留年者は、前期からPBL（Problem Based Learning）形式の少人数グループ学習による基礎薬学系科目の演習を行なった結果、高位の成績推移を示しており、この重要性が確認された。また、第1回模擬試験（11月上旬）との間では強い相関（ $r=0.806$ ）が認められ、この時点での成績が薬学総合演習科目の成績に明らかに反映されることが判った。しかし、成績中位以下について解析した場合、第2回模擬試験（11月下旬）および本試験（1・2月）に向けて、この期間に弱点克服を含めた相当量の学習を行なった者は、急激な成績の伸びを示し単位取得に成功している。

以上の結果より、早期からのPBL形式による演習、および弱点克服に向けた個別学習指導の徹底が重要である。